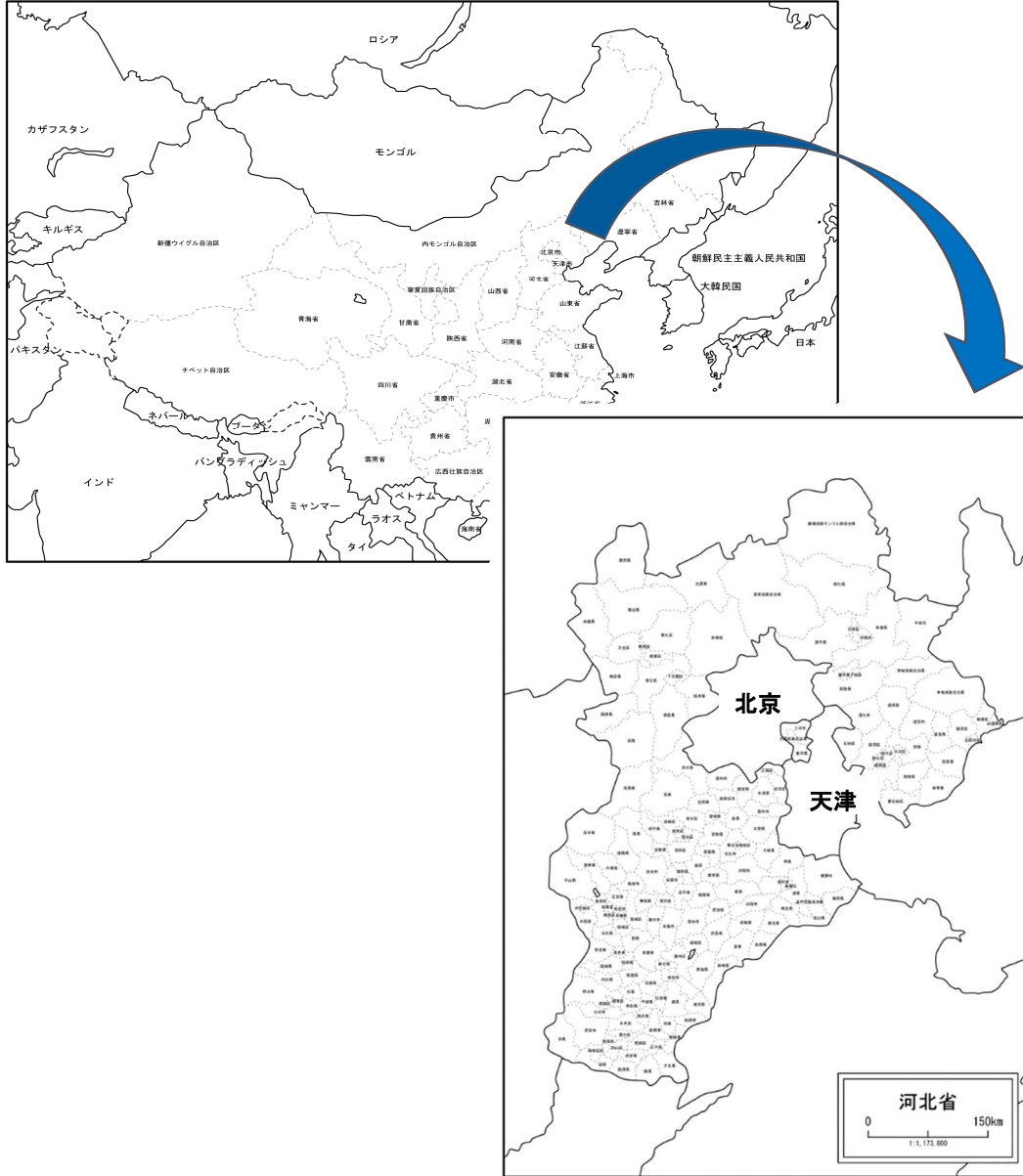


河北省概況

1. 河北省の地理、地形



河北省は中国華北平原に位置し、省会(日本の都道府県庁所在地に相当)は石家荘市。首都・北京を取り囲んでおり、東は天津および渤海に接している。東南部は山東省・河南省、西北部と北部は内モンゴル自治区、東北部は遼寧省と接している(地図参照)。総面積は 18 万 8800 平方キロメートルで、日本の総面積のおよそ 1/2 に相当する。略称は「冀」。温帯大陸性気候に属し、中国の重要な穀倉地帯および綿花生産地帯のひとつである。

河北省の地形は、北西部の標高が高く南東部にいくにつれ低くなっている。また、様々な地形を省内に擁し、山地、高原、丘陵、盆地、平原などバラエティに富んでいる。海拔

2000メートルを超える山は10座あり、最高峰は小五台山で海拔2882メートルである。山地面積は9万平方キロメートルを超え、河北省の総面積の48.1%に達する。

2. 行政区画

11 地級市(市内に区がある市を指す。石家荘、唐山、秦皇島、邯鄲、邢台、保定、張家口、承德、滄州、廊坊、衡水の11市)の他、49市轄区、21県級市、91県、6自治県、2254の郷鎮から成る。

3. 基本情報(2023年)

別称	燕趙、冀州	
面積	188,800 km ²	
年末常住人口	7,393万人(前年比27万人減)	
	<都市部> 4,641万人 (同96万人増)	<農村部> 2,752万人 (同93万人減)
	<男性> 49.7%	<女性> 50.3%
GRP 総額	4兆3,944.1億元(前年比4.7%増) 第一次産業:4,466.2億元(同1.3%増) 第二次産業:1兆6,435.3億元(同1.9%増) 第三次産業:2兆3,042.6億元(同7.4%増)	
1人当たりGRP	5万9,332元(同5.0%増)	
全省1人当たり 可処分所得	3万2,903元(同6.6%増)	
輸出入総額	5,828.4億ドル(同7.6%増)	
実質外資利用額	17.5億ドル(前年比5.5%増)	
出生率	5.54‰	

4. 歴史

紀元前15世紀、商王祖乙によって邢(今の邢台市)に遷都、その後130年間にわたり都であった。春秋戦国時代になると、河北省北部は燕国に属し、南部は中山国(BC414年~BC296年)、趙国(戦国七雄の一つ、BC403年~BC222年)、魏国(戦国七雄の

一つ、BC225 年)に属し、西北部は代国(周代諸国のひとつ、BC475 年成立)に属し、邯鄲市および邢台市は趙国の都であった。

隋の時代には、冀州に属し、以降北宋時代までは、大きな行政区画のごく一部として治められていた。北宋時代に南部は河北東路(行政区分のひとつ)と河北西路、北部は遼国南京道、西京道、中京道に属した。金代においては、完顔亮が燕(今の北京)に都を定めた際、中都等路が置かれた。元代の河北は中央直轄の中書省(古代中国の中枢官庁の一つ)とされた。清代には直隸省が置かれた(省都は保定)。中華民国成立後、今の河北はほぼ直隸省に属し、1928 年に河北省に改名された。

中華人民共和国成立後の 1952 年には察哈爾省の廃止に伴い、その一部が河北省に組み入れられた。1958 年、順義、延慶、平谷、通県、房山、密雲、懷柔、大興などの県が北京市管轄となり、天津市が河北省に区画されたが、1967 年に天津は再度直轄市となった。1968 年、河北省の省会は保定市から石家荘市に変更、2017 年 4 月の国務院通知により、河北雄安新区の設立が決定された。

5. インフラ整備状況

(1) 鉄道

河北省は、北京市につながる全国各地からの経由地であり、長年にわたって発展し、陸海空総合交通運輸網が形成された。

河北省内には、京広線(北京～広州)、京九線(北京～香港)、京滬線(北京～上海)、京広高鉄、京九高鉄、京滬高鉄、京包線(北京～包頭)など 28 本の主要幹線鉄道が通過している。鉄道貨物取扱量は中国大陸においては首位。

(2) 高速道路等

河北省内には、27 本の国家クラス幹線道路が敷設されており、陸路貨物取扱量は中国大陸で第 2 位。全省の高速道路全長は延べ 7279 km である。

(3) 水運

河北省は、海運の条件に恵まれている。南から北に向かって順に主な港として、黄驊港、天津港、唐山港、秦皇島港があり、現在唐山港曹妃甸港区が建設中である。特に唐山港と秦皇島港は、全国でも 8 大港に数えられている。

(4) 航空

石家荘正定国際空港は、2つのターミナル、1つの総合保税區を有し、4つの航空会社の基地となっている。その他、2013 年に張家口寧遠空港が正式開港、2017 年 5 月に承德普寧空港が正式開港、同年 7 月唐山三女河空港が開港し、20 以上の路線が就航している。

6. 開発区について

(1) 秦皇島経済技術開発区

1984年に国務院の批准によって初代の河北省国家クラスの技術開発区。2016年に河北省開発区総合モデルパイロット地区の一つに数えられ、2017年には開発区のGDPが280億元に達し、全市のGDPの約18%を占めるに至った。

渤海湾沿岸の経済ベルトの中心に位置し、北京・天津に近く、華北と東北の二大エリアを繋ぐ立地状況にある。総面積は128 km²、常住人口は約30万人。

国家級の輸出加工区、大学科技園区、国家ハイテク産業イノベーション区を有し、環渤海経済圏において最も活発な経済エリアの一つである。

(2) 廊坊経済技術開発区

1992年成立、2009年に国務院批准を経て、国家級経済技術開発区に昇格。北京と天津の中間に位置し、環渤海・環京津経済圏の中核である。機電、食品、新型建材、轻工紡織、バイオ・医薬を5大重点産業としている。区内には1,300社超があり、代表的な外資企業は、ドイツのシーメンス、ルール・グループ、韓国のLG、オーストラリアのBHPなど。海外からの投資は、日本、米国、独、仏、スイス、デンマーク、オランダ、韓国、シンガポール、オーストラリア等30カ国に及ぶ。内資企業では、家具のトップメーカーである華日家具、エネルギーコングロマリットである新奥燃機などが工業園を建設している。

(3) 滄州臨港経済技術開発区

当該経済技術開発区は、河北省で3つ目そして滄州市唯一の国家級開発区である。2003年、河北省級開発区として批准され、2006年に省内循環経済モデル区に選ばれる。2010年国家級経済技術開発区に昇格することが国務院によって批准された。

区内は東区と西区に分かれて、東区の主要産業は、大型石油化学、石炭、合成材料、西区はバイオ・医薬、ヘルスケア産業が主力である。フランス産業ガス大手のエア・リキード、香港華潤、中国海洋石油、中国化工等、内外の有名企業が区内にてプロジェクトを実施している。

(4) 石家荘経済技術開発区

1992年7月、河北省が批准して成立した省級開発区。2005年には国家発展・改革委員会に「国家バイオ産業基地」として認定され、2013年に国務院が正式に国家級開発区として批准した。2020年には工業・信息化部が国家新型工業化産業モデル基地に定めた。

省内最大の繊維、医薬、電子、機械、化学工業を主体とする総合工業基地である。米のADM社をはじめ、日本の住友商事、スウェーデンのハスクバーナ等、国内大型企業183社が入居している。

(5) 唐山曹妃甸経済技術開発区

2013年に国务院の正式批准を受け設立された、国家級経済技術開発区。主要産業は設備製造業、鉄鋼産業、港湾物流産業、化学産業、ハイテク産業等である。2021年河北省における経済技術開発区総合評価で第1位を獲得した。対外的に積極的な開放政策を打ち出している。

(6) 邯鄲経済技術開発区

2000年に省政府の批准を経て成立し、2013年に国家級に昇格した。国家タイムツ計画新材料産業基地、国家新型工業軍民融合産業モデル基地、国家現代農業産業園など合わせて14の国家クラス、省クラスのプラットフォームを有する。代表的な外資企業としてフランスのサンゴバン・グループ、ドイツのシーメンスやUrbrew Craft Beer、オランダのハークグループが、国内有力企業として、美的集団(スマート家具、ロボット、デジタルイノベーションを主要業務とするグローバル企業)、中船重工(国务院が管理監督する船舶製造の中央企業)、康師傅(大手食品メーカー)等が同区内に入居している。

(7) 張家口経済技術開発区

1992年11月設立、2021年に国家級経済技術開発区に昇格した。区内には、15,000社超が入っており、新エネ、スマート製造、オフィスビル経済、サービス、文化・スポーツ観光が五大産業である。同区は、北京から180キロに位置し高速鉄道で47分ほどの好立地である。

7. 指導者

◆ 倪岳峰 (げい がくほう) 党委員会書記

生年月:1964年9月

出身地:安徽省安慶市

民族:漢族

現職:第20期中央委員、河北省書記、省人大常委会主任

学歴:清華大学自動化系システム工程修了、博士

1985年3月中国共産党入党

【主な略歴】

1993年7月 山東省青島市科学技術委員会主任助理、青島市計画委員会主任

1997年12月 国家海洋局科学技術司副司長

2000年8月 同副局長、党組成員

2003年3月 全国人大環境・資源保護委員会委員

2003年8月 同主任委員助理

2008年2月 同副主任委員(副部長級)

2011年2月 福建省人民政府副省長、党構成員

2013年6月 福建省委常委、省紀委書記

2016年11月 福建省委副書記、福州市委書記
2017年5月 海関総署党組書記(正部長級)
2017年6月 同党組書記、副署長
2018年10月 同党組書記、署長
2022年4月 河北省委書記
2023年1月 同書記、省人大常務委員会主任

◆ 王正譜 (おう せいふ) 省長、党委副書記

生年月:1963年8月

出身地:山東省煙台市

民族:漢族

現職:第20期中央委員、河北省党委副書記、省長

学歴:北京農業大学農学經濟管理専攻

1987年4月中国共産党入党

【主な略歴】

1987年7月 農業部農村合作經濟經營管理総局財務処幹部
1990年6月 農業部合作經濟司審計監督処幹部
1994年12月 農業部農村合作經濟經營管理総站合作基金会処副処長
1997年12月 同処長
2000年11月 農業部財務司專項資金処処長
2002年2月 農業部財務司総合処処長
2003年8月 農業部財務司副司長
2008年3月 農業部弁公庁巡視員、副主任
2010年10月 遼寧省遼陽市委副書記、代理市長
2011年1月 同市長
2014年9月 同委書記
2016年10月 遼寧省委常委、組織部部長
2018年8月 四川省委常委、組織部部長、省委党校校長
2022年1月 河北省委副書記、省政府省長、党組書記、北京2022年冬季オリンピック・パラリンピック組織委員会執行主席

8. その他参考情報

(1) 河北省および省内都市と友好都市・姉妹都市の日本の県および市町村

河北省および省内都市	日本の県および市町村	提携年月日
河北省	長野県	1983年11月11日
河北省	鳥取県	1986年6月9日
石家荘市	長野県長野市	1981年4月19日

唐山市	山形県酒田市	1990年7月26日
秦皇島市	北海道苫小牧市	1998年9月1日
秦皇島市	富山県富山市	1981年5月7日
秦皇島市	京都府宮津市	1987年7月6日
邯鄲市	大分県佐伯市	1994年4月3日
保定市	鳥取県米子市	1991年10月13日
保定市	愛媛県西条市	1994年9月21日
承徳市	群馬県高崎市	1987年10月26日
承徳市	千葉県柏市	1983年11月1日
廊坊市	長野県松本市	1995年3月21日
新楽市	香川県綾川町	1995年5月23日
三河市	茨城県古河市	1999年11月6日
安国市	宮崎県串間市	2000年11月20日
満城県	長野県坂城町	2000年11月3日
秦皇島市撫寧県牛頭崖鎮	島根県隠岐の島町	1994年11月4日

(2) 観光名所

◆ 山海関

山海関は、明代万里の長城の東部の起点で「天下第一関」と称されている。現存する関と付近の長城は明代に建築されたものである。歴史書によると、明代洪武 14 年(1381年)に大將軍魏の国の徐達がここを訪れ”山”と”海”に挟まれていることから、この地を「山海関」と呼ぶことになった。山海関は秦皇島市の東北部に位置し、北は燕山、東は渤海に臨み、東北から華北に通じる「咽喉」を扼し、地理位置は非常に重要である。山海関の長城の長さは 8 里(約 32 km)余り、堀は幅 5 丈(約 20m)、深さ 2.5 丈(約 10m)、城の高さは 4.1 丈である(約 16m)。城の四方にはそれぞれ門があり、東の門は「鎮東」と呼ばれ、「天下第一関」の門とされている。

◆ 金山嶺長城

金山嶺長城は竜峪口、五里蛇口、煉瓦積口、沙嶺口一帯に分布され、長さは 50 km 余り。明代初期に名將徐達が長城を監督修理し、隆慶元年(1567年)に戚繼光が北疆を鎮守し、引き続き多くの雄大で荘厳な敵楼と堅実で雄渾な戦台を建設した。この地点は万里の長城のなかでも最も複雑で、楼台が最も密集している。この場所には敵楼、戦台が全部で 158 あり、建築形式もそれぞれ特色があり、建築形式においては例えば楼墩には方形、円形、扇形などの各種の形状があり、楼頂には穹窿形、四角形、船頂形、八角の天蓋形などがある。他にも多眼夜望楼や物置楼など、長城の他の地域では珍しい建物を有する。金山嶺の長城の各種の建築物は高低差があり、完全された防御システムとなっている。

◆ 清西陵

河北省易県城西の海拔 15000 メートルの永寧山麓に位置し、中国において規模最大で、保存状態が最も完璧な、遺品が最も揃っている清朝の皇室陵墓群の一つである。雍

正、嘉慶、道光、光緒の4人の皇帝、9人の女王、57人の妃、2人の王子、6人の兄弟の合計78人が埋葬されている。2000年11月30日、清西陵は中国明清皇家の陵の一部として『世界文化遺産リスト』に登録された。

◆ 清東陵

清東陵は河北省唐山市の遵化市境に位置し、順治帝がここで狩猟をした時に陵とする地として選んだといわれ、康熙2年(1663年)から建設が始まった。諸陵は順治帝の孝陵を中心に昌瑞山南麓に配置され、いずれも宮壁・隆恩門・隆恩殿・配殿などで構成されている。清代末期の妃の陵墓群であり、中国に現存する最大規模で、体系が最も完備している古帝陵建築でもあり、皇陵が5つ——順治帝の孝陵、康熙帝の景陵、乾隆帝の裕陵、咸豊帝の定陵、同治帝の恵陵、および東(慈安)、西(慈禧)の太后などの后陵が4つ、妃園が5つ、公主陵が1つあり、計14人の皇后と136人の妃を埋葬している。

◆ 承德避暑山荘

夏の離宮として知られる承德避暑山荘は、「承德宮」とも呼ばれている。康熙帝42年(1703年)から乾隆帝57年(1792年)の最終完成まで、89年の歳月をかけて建設された。清朝の初期・中期の皇帝は、ほぼ毎年、旧暦4月から5月にかけてここで夏を過ごし、政務を処理し、9月と10月には北京に戻る生活を送っていた。この避暑地は、清朝にとって第二の政治中心地であった。皇帝たちは、夏の間軍事的・政治的に重要な事柄を処理するために、承德に長期滞在した。そのため、毎年多くのモンゴルやチベットの少数民族の指導者や外国の大使が承德に滞在する皇帝を訪ねるようになった。清朝はこれを利用して承德に寺院を建て、政界や宗教界の上層部に礼拝や宗教活動の場を提供し、避暑地と機能を相互に補完し合う関係となった。

【参考資料】

- ・ 河北統計年鑑 2024年版
- ・ 河北省 2024年国民経済・社会発展統計公報
- ・ 百度百科
- ・ 公益社団法人日本中国友好協会 HP
- ・ 中国経済データハンドブック 2025年版